



東地中海地域ニュース

レバノン：ハリーリ前首相の暗殺に関する国際法廷設置問題

(8月17日付オランダ「フォルクスクラント」紙)

1. オランダは、ラフィク・ハリーリ・レバノン前首相暗殺に関する法廷を受け入れる見込みである。フェルハーヘン・オランダ外相は、「いくつかの実際的諸問題」は短期間のうちに解決されるものと考えていると述べた。
連立与党のキリスト教民主同盟（CDA）のとある政治家によると、近々政府は法廷の受け入れを求める潘基文国連事務総長の個人的な要請に応える予定であるという。
2. オランダ外務省スポークスマンによれば、オランダはこの受け入れに条件を付している。第一に、同法廷で有罪とされた被告人は、オランダ国外で刑に服すということである。オランダは、チャールズ・テイラー事件（注：元リベリア大統領で、リベリアとシエラレオネで戦争犯罪を行った容疑でハーグに設置された特別法廷にかけられている）についても同様の要求をした。同事件の特別法廷は、国際刑事裁判所の建物内にあるが、同法廷により仮にテイラーが有罪とされた場合、英国が同人を拘禁刑に服させることになっている。第二に、オランダは数百万ユーロと見積もられる特別法廷の費用を負担しないということである。フェルハーヘン外相は、レバノン及び国連がその費用を負担するものと考えている。
3. 上記の条件を付してはいるが、オランダは国連の要請に応えることを殆ど切望していると言っている。ハーグ市は、「世界の司法の都」をもって自任しており、国際刑事裁判所、旧ユーゴ国際刑事裁判所、及び国連の最高司法機関である国際司法裁判所を擁している。だが、ハリーリ事件は、国際政治関係の地雷原である。シリアは、同事件への一切の関与を否定している。